



KBS 京都 笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ

2015年1月20日 朝7時過ぎから

森協理事長が生インタビュー取材をうけました。

2013年(平成25年)4月6日

土曜日

享月

日

展望台は桜とも、眺望も楽しめる



展望台周辺の整備を続ける八幡たけくらぶのメンバーたち。いずれも八幡市八幡高坊

眼下に宇治と未津川、桂川の3川合流地帯が見え、その間に桜並木が1.4kmにわたって続く桜名所「背割堤」もろがええる。石清水八幡宮がある男



有志支える絶景コラボ

山の展望台(八幡市・標高約1200m)に立つと、周囲の草刈り取り、ごみを拾い集めた。「桜を眺望のコラボレーション」のすばらしさに思わず「うわー、なかなかいいですね。」と、理事長の西岡力さん(74)は胸を張る。集会所は原町土・日曜・祝日の午前10時~午後3時を開放し、竹林整備の活動を紹介する展示や竹細工製品の販売をしている。メンバー「秋津川恵さん(72)は「景色はもったいないから、所、同人になると、数年間までは周辺は伸び放題の竹などをかなひ視界が悪かったという。見かねたメンバーが地権者の許可を得て、3年前から竹を切り、周辺の整備を進めた。昨秋には展望台の横にある建物を集会所として借り受け、知らせておく。」

2014. 4. 5 京都新聞



約70本の竹を組み合わせて作ったモニュメント(八幡市八幡・男山展望台)

竹灯籠 300個 幻想的に輝く

石清水八幡宮

地元NPO あすまで設置

八幡市の男山周辺の竹林の整備に取り組みNPO法人「八幡たけくらぶ」がこのほ中腹の展望台から境内までの約300本の竹を使った高さ3メートルの竹灯籠を、100個を手に、切出した竹に反射した光を切り出し、幻想的に照らしている。6日まで。

同八幡宮の春の夜間特別拝観に合わせて実施した。男山(76)は「普段は暗い展望台を明かりで歩きやすくした。京都を一望する夜景をぜひ見に来てほしい」と話している。点灯時間は午後6~8時。(二誠慎太郎)

山城

京都新聞

竹細工で「未」の置物

八幡のNPO、展示販売 観光客らに人気

竹細工で作った「未」などえとの置物が、八幡市八幡の京阪男山ケ「フル男山」上駅近くにあるNPO法人「八幡たけくらぶ」集会所で展示・販売され、観光客らの人気を集めて



今年のえと「未」をはじめ、竹で作ったえとの置物 (八幡市八幡・八幡たけくらぶ集会所)

いる。男山に自生するマダケを素材にした同くらぶメンバーの手作りで、「年末に置物を買いそびれた人に見てほしい」と来所を呼び掛けている。八幡たけくらぶは、前からえとの置物作り

石清水八幡宮のある男山の山林を中心に市内の竹林整備や竹炭作りなどに取り組んでいる。メンバー100人のうち約30人でつくる竹細工同好会が、10年前からえとの置物作り

をしている。集会所には、マダケの曲線を生かしてヒツジの角や胴体に見立てて仕上げた置物をはじめ、「午」や「寅」などえとの置物が約100点並んでいる。同くらぶの森脇理事長(65)は「作り手によって個性があり、一つとして同じ作品がない。その年のえとだけでなく、自分のえとの置物を買い求める人も多い」と話す。

置物は1個千円から1500円。集会所は原則として土日、祝日の午前10時〜午後3時に開所する。森脇さんに聞くと、電話番号090(2447)38835。

(山本秀二)

山城

若竹飾り美しく

荒縄巻き 正月用に

「たけくらぶ」が指導



八幡たけくらぶのメンバーと若竹飾りに取り組む参加者(八幡市男山市生涯学習センター)

門松の形を模した若竹飾りを作る教室が23日、八幡市男山の市生涯学習センターであり、参加者が地元NPO法人の指導を受け、迎春準備に取り組ん

だ。石清水八幡宮(同市八幡)のある男山の山林を中心に、市内の竹林整備や竹炭作りなどの活動に取り組む「八幡たけくらぶ」(森脇理事長)が、今年から毎年、開いている。この日は、表面の緑色が濃く、節目も美しいため工作向きとされるマダケを材料として使い、たけくらぶのメンバーが90センチほどの長さに切りそろえた。参加者はメンバーと一緒に針金やひもで竹3本を固定し、水引を付けた。また、竹を立てる針

に荒縄を丁寧に巻き付け、正月用に仕上げた。自宅を持ち帰り、土を入れて松や葉ボタン、ナンテンを植え付けて完成する。今年で3回目の受講となる同市男山、主婦片岡節子さん(70)は「今からどんなふうに見えるか楽しみです。帰省する娘たちの家族も喜んでくれるはず」と話している。

(山本秀二)

